

安全データシート

1. 製品および会社情報

製品名	器具用洗剤 ラボウォッシュ AWL100（低泡性 一般用アルカリ）
会社名	ヤマト科学株式会社
住所	東京都中央区日本橋室町 2-2-1
担当部門	お客様総合サービスセンター
電話番号	0120-405-525
FAX 番号	055-284-5210
緊急連絡先電話番号	0570-064-525
SDS №	
使用用途	器具用洗剤

2. 危険有害性の要約

【GHS 分類】

物理化学的危険性

健康に対する有害性

急性毒性（経口）

皮膚腐食性/刺激性

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

発がん性

特定標的臓器/全身毒性（単回ばく露）

区分 4

区分 1

区分 1

区分 2

区分 2（呼吸器）

環境に対する有害性

※記述のない GHS 分類は「区分に該当しない」または「分類できない」である。

【GHS ラベル要素】

絵表示またはシンボル

腐食性

感嘆符

健康有害性



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H302
H314
H351
H371

飲み込むと有害

重篤な皮膚の薬傷及び目の損傷

発がんのおそれの疑い

呼吸器の障害の恐れ

注意書き

安全対策

P201
P202
P260
P264
P270
P280

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

取扱後は手をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

P304+P340

吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P305+P351+P338

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P308+P311

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

P308+P313

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当を受けること。

P330

口をすすぐこと。

P363

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

保管

P405

換気の良い冷暗所で保管すること。

廃棄

P501

内容物／容器を国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物（液体）

化学名（一般名）

器具用洗剤

成分

水酸化ナトリウム

CAS №

1310-73-2

化審法

安衛法

公表

含有量

2.9%

器具用洗浄剤 ラボウォッシュ AWL100（低泡性 一般用アルカリ） ヤマト科学株式会社

アルコール系溶剤	社外秘			1～10%
キレート剤	社外秘			1～5%
非イオン界面活性剤	社外秘			1～5%
水	7732-18-5	局方	公表	残量
危険有害性成分	水酸化ナトリウム			

4. 応急措置

飲み込んだ場合	無理に吐かせない。直ちに口を水ですすぎ、卵白と混ぜたミルクか大量の水を飲ませる等の処置をする。直ちに医師の手当て、診断を受ける。但し患者の意識が無い場合は口から何も与えてはならない。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服等を脱がせ、直ちに水で十分に洗い流し、ホウ酸水等で中和する。刺激が残っていれば医師の手当て、診断を受ける。
眼に入った場合	直ちに清浄な流水で 15 分以上洗眼する。洗眼はまぶたを開き水が全体にいきわたるようにする。直ちに医師の手当て、診断を受ける。コンタクトレンズ着用の場合にはできるだけはずすこと。
吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移動させ、毛布等で保温し、安静にさせる。直ちに医師の手当て、診断を受ける。必要に応じて酸素吸入や人口呼吸を行う。
予想される急性症状および遅発性症	腐食性、灼熱感、咽頭痛、咳、嘔吐、息苦しさ、息切れ、皮膚の発赤、痛み、水泡、皮膚熱傷、眼の重度の熱傷、腹痛、痙攣、昏睡、目眩、全身麻酔、発作、ショックまたは虚脱。
最も重要な兆候および症状 医師に対する特別注意事項	安静と症状の医学的な経過観察が不可欠である。

5. 火災時の処置

消火剤	水、泡、粉末、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	通常は引火しない。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 加熱すると水分が蒸発し、残分は燃焼するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性または毒性のガスを発生するおそれがある。
特定の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器および周囲に散水して冷却する。 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業は風上から行う。 指定の消火剤を使用する。 出来る限り流出物が配水管または水路に入るのを防ぐ。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の処置

人体に対する注意事項、保護具および緊急処置	作業の際には保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 密閉された場所に入る前に換気する。 風上から作業し、風下の人を避難させる。
環境に対する注意事項 回収・中和	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 少量漏出の場合、ゴム手袋を着用し希硫酸等で中和後、ウェス等で拭き取る。残りは大量の水で洗い流す。 大量漏出の場合、拡散を防止する為、土砂でせき止めし乾燥砂等を使い回収する。残りは希硫酸等で中和後大量の水で洗い流す。
封じ込めおよび浄化の方法・機材 二次災害の防止策	危険でなければ漏れを止める。 すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い	
技術的対策	必要に応じ、適切な保護具、保護眼鏡、保護手袋等を着用する。
局所排気・全体換気	「8. 暴露防止および保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取り扱い注意事項	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。（禁煙） 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を与え、または引きずる等の取り扱いをしてはならない。接触、吸入、または飲み込んではいない。眼に入れてはならない。 取り扱い後はよく手を洗うこと。屋外または換気の良い区域でのみ使用すること。
保管	
接触回避	保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、または取り扱うために必要な採光、照明および換気の設備を設ける。
混触危険物質	「10. 安定性および反応性」を参照。
保管条件	密閉し通風のよい暗所に保管する。容器は直射日光や火気を避けること。容器を密閉して保管すること。
容器梱包材料	消防法および国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. 暴露防止および保護措置

管理濃度	設定なし
許容濃度（暴露限界値・生物学的暴露指標）	日本産衛学会 水酸化ナトリウム：2 mg/m ³ （最大許容濃度） ACGIH 水酸化ナトリウム：TLV-TWA Ceiling 2mg/m ³
設備対策	取り扱い場所の近くに、目の洗浄および身体洗浄のための設備を設置する。 作業場には局所排気装置を設置すること。
保護具	
呼吸器の保護具	保護マスク、送気マスク、空気呼吸器、有機ガス用防毒マスクを着用する。
手の保護具	適切な保護手袋を着用する。飛沫を浴びる可能性のある時は、全身の化学用保護衣を着用する。
眼の保護具	適切な保護眼鏡を着用する。
皮膚および身体の保護具	保護長靴、長袖の保護衣等を着用する。飛沫の可能性がある場合は、全面耐薬品性防護服およびブーツが必要である。
衛生対策	作業中は飲食、喫煙はしない。取り扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的および化学的性質

外観	無色～淡黄色透明液体
臭い	原料臭
pH	13.5 ± 0.5（原液） 11.7 ± 0.5（1%水溶液）
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点および沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
爆発範囲	データなし
比重（密度）	1.05 ± 0.02（20℃）
溶解度	データなし
オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度	データなし

10. 安定性および反応性

安定性	通常の手扱いでは安定。
危険有害反応可能性	強酸性物質と激しく反応する。 各種の金属を腐食して水素ガスを発生し、空気と混合して引火爆発することがある。
避けるべき条件	直射日光、熱、強酸性物質、金属
混触危険物質	強酸性物質、金属
危険有害な分解生成物	CO _x 、酸化カリウム、窒素酸化物、水素

11. 有害性情報

急性毒性	急性毒性(経口)：1100mg/kg (Rat、計算値) (GHS 分類：区分 4)
皮膚腐食性／刺激性	製品についての情報：区分 1 成分についての情報：水酸化ナトリウム ブタの腹部に 2N(8%)、4N(16%)、6N(24%)溶液を適用した試験で、大きな水疱が 15 分以内に現れ、8%および 16%溶液は全表皮層に重度の壊死を生じ、24%溶液においては皮下組織の深部に至る壊死を伴う無数かつ重度の水疱が生じたとの報告〔SIDS (2009)〕、およびウサギ皮膚に 5%水溶液を 4 時間適用した場合に重度の壊死を起こしたとの報告 (ACGIH (7th, 2001)) に基づき区分 1 とした。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	製品についての情報：区分 1 成分についての情報：水酸化ナトリウム ウサギ眼に対し 1.2%溶液ないし 2%以上の濃度が腐食性濃度との記述〔SIDS (2009)〕、pH は 12 (0.05% w/w)〔Merck (14th, 2006)〕であることから区分 1 とした。
皮膚感作性	製品についての情報：分類できない
呼吸器感作性	成分についての情報：情報なし 製品についての情報：分類できない
生殖細胞変異原性	成分についての情報：情報なし 製品についての情報：分類できない
発がん性	成分についての情報：情報なし 製品についての情報：区分 2 成分についての情報：キレート剤 ori-rat TDLo:830 g/kg/2Y-C IARC = 2B (人に対して発癌性があるかもしれないと分類された化学品) NTP = 情報なし
生殖毒性	製品についての情報：分類できない 成分についての情報：情報なし
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	製品についての情報：区分 2

器具用洗剤 ラボウォッシュ AWL100（低泡性 一般用アルカリ） ヤマト科学株式会社

	成分についての情報：水酸化ナトリウム 粉じんやミストの急性吸入ばく露により粘膜刺激に続き、咳・呼吸困難などが引き起こされ、さらにばく露が強いと肺水腫やショックに陥る可能性がある（PATY (5th, 2001)）という記述により区分1（呼吸器）とした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	製品についての情報：分類できない
誤えん有害性	成分についての情報：情報なし 製品についての情報：分類できない 成分についての情報：情報なし

1 2. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	製品についての情報：分類できない 成分についての情報：情報なし
水生環境有害性 長期(慢性)	製品についての情報：分類できない 成分についての情報：情報なし
オゾン層への影響	データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に従って処理を行うか、または許可を受けた廃棄物処理業者に委託して処分する。環境中に放出する場合は、廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化および中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にし、法的基準を満たしていることを確認してから行う。
汚染容器および包装	空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去した後に廃棄する。

1 4. 輸送上の注意

国内規制	
陸上規制情報	安衛法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	国連番号 1824
	品名 水酸化ナトリウム（水溶液）
	クラス 8
	副次危険 なし
	容器等級 III
	海洋汚染物質 該当しない
航空規制情報	航空法の規定に従う。
	国連番号 1824
	品名 水酸化ナトリウム（水溶液）
	クラス 8
	副次危険 なし
	容器等級 III
特別の安全対策	輸送前に容器が密閉されているか、液やガスの漏れがないか確認する。容器の輸送および運搬は、常にしっかりと固定した状態で行い、特にビンまたは缶は輸送中に衝突して破損することがないようにあらかじめ適当な緩衝物を使用する。輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。他の危険物のそばに積載しない。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法	第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 通知対象物（水酸化ナトリウム） 労働安全衛生規則第 326 条（水酸化ナトリウム）
化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）	該当しない
毒物および劇物取締法	該当しない
消防法	該当しない
船舶安全法	危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1（腐食性物質）
港則法	施行規則第 12 条危険物告示別表（腐食性物質）
航空法	施行規則第 194 条危険物告示別表第 1（腐食性物質）
海洋汚染防止法	施行令別表第 1 有害液体物質（Y 類）（水酸化ナトリウム） 施行令別表第 1 有害液体物質（Y 類）（キレート剤）

1 6. その他

引用文献	15911 の化学商品(化学工業日報社) 国際化学物質安全性カード(ICSC) 職場のあんぜんサイト(厚生労働省情報サイト) NITE 化学物質総合情報提供システム(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) GHS 混合物分類判定システム(経済産業省)
------	--

この製品安全データシートは安全保証書ではありません。
本製品を取り扱う場合は、本文書の記載内容を参考として使用者の責任において実態に応じた適切な処置を講じてください。
また製品安全データシートの内容は、法令の改正および新しい知見に基づき改訂されることがあります。